

支笏洞爺国立公園

公園計画の変更 (一部変更)

ご説明の流れ

1. 支笏洞爺国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

ご説明の流れ

1. 支笏洞爺国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

支笏洞爺国立公園の概要

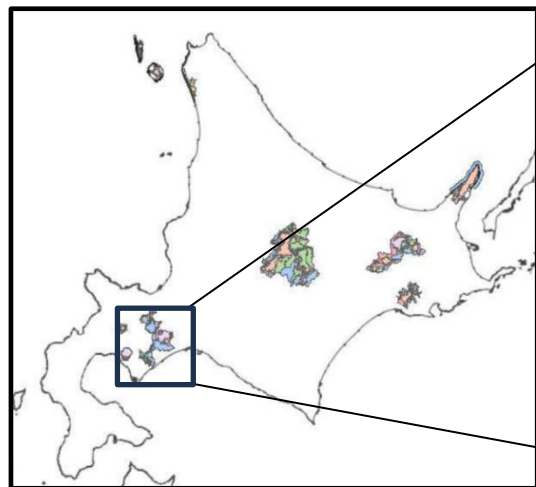
生きている火山と静まる蒼い湖 －火山活動の博物館－



洞爺湖(中島)と羊蹄山

支笏洞爺国立公園の概要

- 指定：昭和24年5月16日
- 面積：99,473ha



● 風景形式

今なお活動を続けている有珠山や成層火山の羊蹄山等の山々の間に、噴泉、地獄谷等の火山現象地や支笏湖及び洞爺湖等の火山性湖沼が散在しており、我が国を代表する火山性群峰景観が特色

● 見直しの経緯

昭和24年5月16日 指定
 昭和54年6月15日 再検討
 (羊蹄山地域)
 平成7年8月21日 再検討
 (支笏・定山溪・洞爺湖・登別地域)
 平成18年2月20日 第1次点検

ご説明の流れ

1. 支笏洞爺国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

生態系維持回復計画について

公園計画

規制に関する計画

保護規制

利用規制

各種行為の規制

特別保護地区
特別地域等

マイカー
規制等

利用調整地区

事業に関する計画

施設事業

保護施設

利用施設

保護のための施設

自然再生施設
植生復元施設等

利用のための施設

園地、野営場等
宿舎、スキー場等

生態系維持回復計画

自然体験活動計画

ポイント

- ・予防的・順応的な対策実施
- ・役割分担の整理・明確化
- ・目標とロードマップの共有
- ・自然公園法の個別の許可は不要に

生態系維持回復事業計画の策定・実施

今回変更のポイント

●生態系維持回復計画の策定

対象地域：支笏洞爺国立公園（**洞爺湖中島**）

- 洞爺湖中島地域（大島・弁天島・観音島・饅頭島の総称）では、昭和30年代に人為的に持ち込まれたエゾシカが爆発的に増加し、長期間にわたり高密度状態が続いたことにより、森林植生などの島の生態系に影響が生じた。中島では、これまで長年にわたり関係機関による捕獲及び調査が実施されてきている。
- 平成29年には、環境省、林野庁、洞爺湖町、壮瞥町、地元関係者等からなる「**洞爺湖中島エゾシカ対策協議会**」において「**洞爺湖中島エゾシカ管理計画**」を策定している。（管理計画は令和3年に改訂）
- 現状、中島におけるエゾシカの個体数は約90頭、生息密度は0.19頭/haとなっているが、**今後も捕獲をはじめとするエゾシカ対策を積極的に実施し、島の生態系を健全な状態に回復させ、その維持を図るために生態系維持回復計画を策定する。**

生態系維持回復計画の追加

○生態系維持回復計画

位置：洞爺湖中島

事業の実施方針：

洞爺湖中島地域では、かつてエゾシカは生息していなかったが、昭和30年代に人為的に持ち込まれたものが逸出し、増加した。その個体数は爆発的増加と減少を繰り返し、島の森林植生の変化（樹皮剥ぎによる樹木枯死、林床植生の衰退、外来植物も含む不嗜好植物の増加、天然更新の阻害等）が確認されている。**本事業では、洞爺湖中島において、生態系の状況を把握するための調査、メスジカの積極的な捕獲によるエゾシカ個体数の削減及び外来生物の防除等を実施することで、島内の生態系を在来植生が更新する健全な状態に回復させ、その状態の維持を図る。**

➡ 事業内容については、生態系維持回復事業計画において詳しくご説明。



中島で確認されたエゾシカの様子



枯死、林床植生の衰退等の影響状況



ご説明の流れ

1. 支笏洞爺国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

パブリックコメントの実施結果

■ 概要

・ 実施期間 令和5年9月28日（木）から10月27日（金）

・ 意見募集の結果 【意見提出数】

電子メールによるもの 計1通（1件）

郵送によるもの 計0通

FAXによるもの 計0通

今回の変更案にかかるもの 計1件